

第31回全日本高等学校女子サッカー選手権山形県大会 新型コロナウイルス感染症拡大防止に関するガイドライン

1 基本的な考え方

- (1) 参加チームのスタッフ（監督・コーチ等）・選手・観戦者（スタッフ・選手の家族に限る）及び審判等をはじめ、大会関係者の安全・安心の確保を最優先として、大会実施に向けた対策を行う。
- (2) 大会に関わるすべての者は、試合日7日前からの健康・体温チェックを徹底し、少しでも体調不良等の症状がある場合は参加しないこと。
- (3) 大会の参加にあたっては、チーム・選手の所属長からの許可を得ること。
- (4) 大会の開催、実施に係る重要事案は、女子委員会と県協会が協議の上決定する。

2 感染拡大防止策の概要

(1) 参加に向けた対応

- ① 各会場の担当者は事前に会場施設と打合せを行い、感染対策に必要な事項を確認のうえ、参加チームへ伝達すること。（使用可能施設、飲食可能場所、等）
- ② 参加チームのスタッフ・選手は、健康チェックシート（様式1）により、試合日7日前から健康・体温を確実にチェックするとともに、チーム代表者は必要に応じて提出できるよう保管すること。
- ③ 試合日7日前からの健康・体温チェック時に、以下のア～クに該当する事項がある場合は、原則として参加を認めない。ただし、新型コロナウイルス感染症の感染リスクが低いことを示す医師や保健所の指示（許可）がある者、または、PCR検査等により陰性判定を受けた者は参加を認める。

【試合日7日前における以下の事項の有無】

- ア 平熱を越える発熱
 - イ 咳、喉の痛みなどの風邪の症状
 - ウ だるさ（倦怠感）、息苦しさ（呼吸困難）
 - エ 味覚や嗅覚の異常
 - オ 体が重く感じる、疲れやすい等
 - カ 新型コロナウイルス感染者との濃厚接触またはPCR検査対象
 - ※ 検査で「陰性」と判定された者を除く
 - キ 同居家族や身近な知人で感染が疑われる方
 - ク 過去14日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触
- ④ チーム代表者は、スタッフ・選手・観戦者の試合日の健康・体温を会場入場前に確実にチェックし、健康チェックシート（様式2）を入場時に本部へ提出すること。
 - ⑤ 審判及び運営者は、試合日の健康・体温を各自でチェックし、健康チェックシート（様式2）を本部へ提出すること。
 - ⑥ 本部担当者は、チーム代表者等から提出された健康チェックシート（様式2）を後片付け担当チームに引き継ぎ、後片付け担当チームは会場施設に提出すること。

- ⑦ 提出様式に指定のある会場は、その指示に従うこと。また、健康チェックシートの提出が不要の会場は、本部担当者が保管し、後日事務局へ提出すること。
- ⑧ 試合から1週間以内に新型コロナウイルス感染症を発症した場合は、女子委員会に速やかに報告すること。

(2) 試合日の対応

- ① 参加チームは感染対策責任者を設置し、以下の対応を行うこと。

【感染対策責任者の役割】

- ア 選手の日常的な健康観察（試合日7日前の結果を常備しておくこと）
 - イ 感染疑い、陽性者が発生したときのスタッフ・選手の行動歴の調査、報告。
 - ウ 日常の活動、試合前後における選手の体調管理
 - エ 必要がある場合、試合当日の大会本部に選手の様子を報告する。
- ② 健康チェックシート（様式2）を試合当日の大会本部に提出すること。
 - ③ 会場到着後に体調不良者等が出た場合、速やかに本部に報告すること。
 - ④ 飲食については、周囲の人となるべく距離をとって対面を避け、会話は控えめにすること。
 - ⑤ チームから出たゴミ・廃棄物は各自持ち帰りとする。また、鼻水・唾液等のついたごみの処理には十分配慮すること。
 - ⑥ 移動時も感染防止対策を行うこと。（車内等の換気、マスク着用、座席配置等）
 - ⑦ 試合会場では原則マスク（不織布製）を着用すること。
 - ⑧ 試合前後の手洗いうがい、消毒を徹底する。
 - ※ 各チームでハンドソープ・消毒液を準備すること。
 - ⑨ 試合前のアップ時はマスクの着用を義務付けないが、終了後は速やかに着用すること。試合観戦中のベンチ内でもマスクを原則として着用すること。
 - ⑩ ベンチに入らなかったメンバーは3密に留意しながら観戦すること。
 - ⑪ ベンチ外メンバー、観戦者の応援は拍手のみとし、不必要な会話を控えること。
 - ⑫ ボトルの回し飲みは禁止。（個人用ボトルで対応、飲水タイムの実施、給水箇所の設置など）
 - ⑬ 会場、ピッチ内において唾や痰を吐くことは極力行わないこと。
 - ⑭ チームで使用するボールや用具等、多くの選手が触れるものも消毒すること。
 - ⑮ 更衣室や控室を利用する際は、十分に換気を行い、マスクを着用し、不必要な会話を行わずに、短時間で利用すること。
 - ⑯ 飲みきれなかったスポーツドリンク等は必ず水場に捨てること。

3 その他

- (1) マスクを着用する場合は、こまめに水分補給を心がけるよう、各チームで指導すること。また、周囲の人との距離を十分にとれる場所で、マスクを一時的にはずして休憩するなど、熱中症には十分に注意するよう配慮すること。
- (2) 高温や多湿といった環境下でのマスク着用は、熱中症のリスクが高くなるので、屋外で人と十分な距離（少なくとも2m以上）が確保できる場合には、マスクを外すよう声がけすること。ただし、会話の際はマスクを着用すること。